

HCJB 日本語放送60年の歩み(2) 南米向け放送開始



日本からは地球の裏側にあたる南米大陸の赤道直下の国エクアドルから日本語放送が南米向けにスタートしたのは今から 60 年前の 1964 年 1 月でした。5 月 1 日には放送開始できるというのでオープニングのテーマ曲を何にしようかと迷っていました。広い大空を縦横無尽に飛び交う電波をキャッチしてもらうために各放送局も独自のインターバル・シグナルを流していますが、HCJB 日本語放送のオープニングの曲を何にしようか。番組発信地であるエクアドルの国歌？民族色のあるフォーククローレは？

いろいろと放送の準備に追われていたある日、在エクアドル日本全権大使日向清蔵ご夫妻から夕食に誘われました。広い庭付きの公邸の応接室に案内され応接室で控えていた折、部屋の隅に大型の電気蓄音機（箱型のレコード・プレイヤー）が目につき。そばにはアルバムも備わっていたので手にとってみているうち、「日本の調べ名曲集」が出てきました。早速、針を落として聴き始めると静かに流れてきたのは「さくらさくら」のメロディーでした。目を閉じて郷愁のおもいにひたつているうちに胸がしだれられる思いがして涙が溢れたのです。故郷を離れて半年ばかりなのにこんなにも遠く離れた故郷への郷愁が切ないものであるかを実感させられたのです。「そうだ。これだ！」と叫んだ私の声に驚きながらも久子も「南米の移住家族をきっと同じ想いにさせるに違いない」とうなづいてくれたのです。

1964 年 5 月。日本では東京オリンピック開催で湧き上がっている頃、アンデスの峰を越えて南米の日本人移住者家族に向けての日本語放送が開始。「さくらさくら」の曲は夕暮れ時、広大な南米大陸の隅々にまで快調に混信もなく南米移住者の家庭に届けられていったのです。早速、リスナーからの喜びと感謝の手紙が続々と届き始め、家族ぐるみの文通がはじまりました。今日はその折々に家族からとどいたお手紙に書かれていた俳句を紹介しましょう。当時の感謝と喜びの気持ちがこめられています。



今を去る昭和 9 年の 8 月に我ら一家八人乗船渡伯（炭谷政代）
 その夜より日語できる福音放送時間より受信待ちおり（炭谷政代）
 アンデスの峰越え届く福音に夜のくるのを楽しみて待つ（炭谷政代）
 故障したラジオ修理し老夫は得意顔にてわれを見ており（炭谷政代）
 アンデスの峰よりひびく神の声照らし給えや暗き旅路を（安倍治子）
 いにちの務めを終えて夕餉時夕げ時心楽しきアンデスの声聴く（伊川清司）
 上見ればきりなき世なれど我が身には神に感謝の二字あるのみ（海上尚子）
 アンデスの峰よりきこゆる早春譜好みて歌いし亡き姉しのぶ（海上尚子）
 1 日の仕事を終えて夕食時ダイヤル合わすアンデスの声（益崎昭伸）
 琴線の響く夕べはたのしくてダイヤル握り遠耳傾く（尾崎貞良）
 アンデスを越えて流れてアマゾンをくだるしづくよ生命の糧（尾崎貞良）
 夕暮れすぎし静寂に湧くごとくさくらさくらの美しその曲（設楽昭五）
 ささやかなるや家族等と夕げの膳にラジオを据えて（設楽昭五）
 年老いてくすぶるばかりの人生にアンデス越えて風吹き来る（森 直吉）
 お便りの交換が交歓となるこころのかけ橋アンデスの声（森 直吉）
 アンデスの声聞き終えて今日もまた心おきなく寝室に入る（森 直吉）
 日本の裏というならそれでいい ここブラジルの豊かな大地（藤井常世）



サタデー・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峰野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
2月 3日	アメリカ大陸新発見（23回）ワイオミング州・モンタナ州	2月 4日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇 33 篇
2月 10日	女ばかり南米大陸に行く：アルゼンチン（2）	2月 11日	リスナーからの「お便り交換の時間」
2月 17日	日本短波クラブ湘南ミーティング開催	2月 18日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇 34 篇
2月 24日	マリンバの調べ・希望のことば	2月 25日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇 35 篇

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3 形式）

放送時間：日本時間 午前 7 時半～8 時 15.420kHz (再放送) 午後 8 時～8 時 30 分 11.905kHz
 (米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

